

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*天体望遠鏡博物館が香川県さぬき市に

筆者が「望遠鏡博物館」の情報を最初に掴んだのは、2013年8月17日に前日本天文学会会長であった岡村定矩氏から「こんな話を見つけました。ご参考までにお送りします」と、2013年8月16日付日本経済新聞地方経済面四国の「さぬき市に望遠鏡博物館」という記事の切り抜きをお送りいただいた時であった。その頃筆者は国立天文台に遺された貴重な望遠鏡、観測装置、測定装置などを発掘、収集、整備、展示を進め国立天文台博物館構想を進めており、これは意外なところに大変なライバルが出現したものだと思っていた。

2013年度の国立科学博物館の調査研究の一つとしてこの「望遠鏡博物館の調査」を提案し、2014年2月1、2日の調査旅行に、科博の洞口、中島両氏と3人で出かけた。「望遠鏡博物館」は2015年開館を目指している組織だがすでに正式名称があり、「社団法人天体望遠鏡博物館」である。この望遠鏡博物館の主催者である村山昇作氏が、この調査旅行の前に国立科学博物館を訪ねており、洞口、中島両氏が村山氏と綿密な調査旅行計画を練ってくれた。

「天体望遠鏡博物館」は香川県さぬき市山間部の過疎地「多和地区」の廃校になった小学校(写真1)を譲り受け、屋内プールを改修して展示場の準備がなされており、すでに口径60 cmのニコン製の反射望遠鏡の躯体がゴロンと置かれたり、かなり大型の望遠鏡が所狭しと搬入されていた(写真2、3)。



写真1 廃校になった多和小学校(天体博物館文書から)

各地の自治体の望遠鏡施設や学校の統廃合などで不要になった望遠鏡が競売にかけられるが、大型のものは搬出、輸送に多額の費用が必要なため廃棄処分になることが多い。「天

「天体望遠鏡博物館」構想が発表されると、望遠鏡の寄贈の申し出が相次ぎ半年で50台も集まったそうである。筆者は、宇宙航空研究開発機構 JAXA の内之浦宇宙空間観測所の60cm シュミット望遠鏡の調査に行こうとその様子を尋ね、すでに鉄くずとして廃棄され影も形もないと言われ唖然としたものである。



写真2 60cm反射望遠鏡



写真3 所狭しと並んだ望遠鏡群

さぬき市多和地区は四国霊場88か所めぐりの最後の88番札所「大窪寺」(写真4)への遍路道沿いにある。小学校が廃校になるほどの過疎地であり、地元ではこの計画に大きな期待を抱いている。



写真2 四国88か所めぐり88番札所「大窪寺」

「天体望遠鏡博物館」のために蒐集された望遠鏡の多くは白河地区に借りた3階建ての倉庫に収蔵されており、それこそ所狭しと並べられている(写真5、6、7、8)。村山昇作氏の天体望遠鏡博物館へのこの活動がなかったら、これらの多くの望遠鏡はごみとして処分されたことであろう。これらが過疎地の廃校になった小学校で世界初の天体望遠鏡博物館として青少年ばかりではなく、四国88か所めぐりの年配者たちにも大きな夢を与えずに

はおかないであろうと思った。



写真 5



写真 6



写真 7



写真 8

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp